

# 新町「横芝光町」の誕生に向けて



横芝町議会議長 八角 健一

新年明けましておめでとうございます。輝かしい平成18年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

町民の皆様には、平素から当議会に対し深いご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、アメリカ南部を襲った巨大地震、また日本においても相次ぐ台風の上陸など、地球規模での自然災害が数多く発生した年でした。幸い当町は大きな被害も無く済みましたが、改めて自然災害の怖さと防災対策の重要性を痛感するものでした。被災地域の日も早い復興と、今年一年の安寧を心から願うものであり

ます。

さて、一昨年より進めてまいりました光町との合併は、関係各位のご尽力により全ての協議が整い、本年3月27日には新町「横芝光町」が誕生します。これにより、我が横芝町は半世紀余りに亘る長い歴史に幕を閉じようとしています。町民の一人として一抹の寂しさを覚えるのは私一人だけではないと思います。しかしながら、市町村合併は、行財政改革の推進、少子高齢化や高度情報化社会など多様化する住民のニーズに応えるため、避けては通れないものであり、今後さらに推進して行かなければならない重要な課題であると考えます。

新町の誕生に向け、私も議会はお互い力を合わせ、多くの先輩方が築き上げてきた実績を基に、新町の将来像であります「栗山川がはぐくむ 人・自然・文化が共生するまち」実現のため、全力を傾注してまいる所存でございますので、皆様のおお一層のご支援をお願い申し上げます。

結びに、町民皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

## 今年は何年

今年は何年です。

犬といえば、「知恵」「勇氣」「誠実」の代名詞のような動物。昔話の『桃太郎』や『花咲爺』に登場するのも、そういう犬たちです。主人が亡くなった後も毎日駅前まで待ち続けた「忠犬ハチ公」のお話は有名です。

このように、犬は昔から、人間の大切なパートナーであったわけですが、今でも、狩猟犬や牧羊犬、盲導犬や警察犬、そして、災害が多い近年では、災害救助犬として、被災地などで活躍する場面を目にするのが多くなりました。

ところで、妊産婦の帯祝い「戌の日」が選ばれるように、犬は安産、多産の象徴とされています。では、戌年に生まれた人はどのくらいかというところ、平成17年1月1日現在の推計人口では、戌年生まれは983万人で、総人口の7.7%を占めています。これは、十支のなかで11番目、酉年（943万人）に次ぐ少なさです。ちなみにいちばん多いのは、丑年の1117万人です。



「犬に論語」(どんなに道理を説いて聞かせても効果がなく、むだであるの意)、「犬の遠吠え」(臆病者が陰で虚勢をはり、人の悪口を言うたとえ)、など、「犬」が登場する諺はたくさんあります。犬の「勇氣」や「誠実」を表すような諺は、なかなか見当たりにせん。

いろはガルトタの一枚目は、ご存知、「犬も歩けば棒に当たる」。辞書によると、「何か物事をしようとする者は、それだけに何かと災難に遭うことも多い」、あるいは、「たとえ才能や運がなくても、何かやっているうちには、思いもよらぬ幸運に会うことがある」という意味とも書かれています。

どちらの解釈にしても、今年も、慎重な心配りのもとに、積極的な努力を惜しまず、開運間違いなし—といきたいものです。